

(1) 令和4年度文化財関係事業について

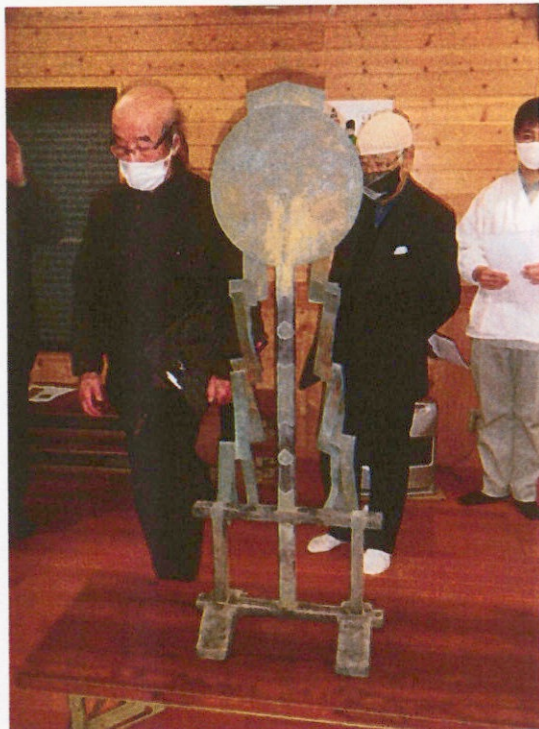
事業の名称	内 容	備 考
文化財保存事業		
飯高寺管理事業	非常用防災施設（火災報知設備・消火ポンプ・避雷針）の保守点検を実施（補助金）	継 続
飯高檀林跡を守る会	活動補助金	継 続
仁組獅子舞保存事業	後継者育成、伝承事業の助成を実施（補助金）	継 続
東郷神楽保存事業	〃	〃
九十九里浜地曳大漁歌保存事業	〃	〃
野手囃子保存事業	〃	〃
木積箕づくり保存事業	〃	〃
八日市場盆踊り保存事業	〃	〃
六社大神神楽保存事業	新型コロナウイルス感染症の影響による行事等の中止により、補助金を辞退	〃
松山神社神楽保存事業	〃	〃
八雲神社祭礼囃子保存事業	〃	〃
薬師寺榎保存事業	保全事業の助成を実施（補助金）	継 続
文化財普及・活動事業		
新緑祭（4月）	4月24日（日）	210名
飯高檀林コンサート（10月）	10月9日（日）	348名
檀林大学 （第5期4年目）	4月16日（土）第10講 5月28日（土）第11・12講 6月25日（土）第13講 7月23日（土）第14講（視察研修） 11月5日（土）第15講 12月18日（日）第16講	25名 各24名 16名 17名 21名 23名
仏画公開（令和5年1月下旬）	新型コロナウイルスの影響により中止	
埋蔵文化財保存事業	久方大倉台遺跡整理作業	継 続

(2)「熊野神社の御正体」の指定について

- | | |
|-------------|---|
| 1. 名 称 | 熊野神社の御正体 |
| 2. 員 数 | 2面 |
| 3. 所在の場所 | 匝瑳市大寺1990番地1 |
| 4. 所有者氏名 | 宗教法人 熊野神社 松山義仁 |
| 5. 種 類 | 工芸品 |
| 6. 内 容 | 令和2年7月の神社改修計画に伴う調査の際、本殿内に保管されているのが確認された。江戸時代、熊野神社は隣接する能円寺（現在は廃寺）が管理していた。そのため仏教色が強く、御祭神には熊野三山の仏を表す三体の仏像（千手観音、薬師如来、阿弥陀如来）が1面の鏡に浮き彫りされている。御正体は金銅製で、三体の仏像は銅製とみられる。また、令和3年10月の解体工事では、更に古用な御正体も発見された。 |
| 7. 由 来 | 旧社殿の墨書から延宝3（1675）年に本殿が改修新築した際に御正体も新造されたと考えられる。また、明治43年（1910）に神社が千葉県に提出した「神社財産登録申請」の熊野大神宝物の中の「御鏡青銅製」が御正体にあたると思われる。 |
| 8. 所 見 | 江戸時代、市内のほとんどの神社は隣接する寺院の僧侶が管理していた。御祭神に妙見菩薩像などの例は見られるが、現在までこうした御正体はこの熊野神社だけであり、神仏習合の熊野信仰を伝える貴重な文化財といえる。 |
| 9. 保存上の留意事項 | 明治の神仏分離以降、箱の中に保存されている。 |
| 10. その他参考事項 | 今回の社殿再建により、銘文のある柱などの保存が望まれる。 |



←↑令和2年7月の神社改修計画に伴う調査の際、本殿内で発見された御正体



←令和3年10月の神社解体工事で新たに発見された更に古用な御正体

(3) 「白山神社の絵馬」の指定について

- | | |
|-------------|---|
| 1. 名 称 | 白山神社の絵馬 |
| 2. 員 数 | 3面 |
| 3. 所在の場所 | 匝瑳市木積1213番地 |
| 4. 所有者氏名 | 宗教法人 白山神社 行木大 |
| 5. 種 類 | 絵画 |
| 6. 内 容 | 神社の拝殿に掲げられている3点の絵馬(奉納額)。明治末年まで木積で行われていたとされる珍しい行事の通称「大根投げ」の様子が描かれており、弘化4年(1847)出版の『下総名勝図絵』に、白山大権現の祭礼として紹介されている。(詳細は別添参照) |
| 7. 由 来 | 18日の絵馬の右上に「天保十五甲辰(かのえたつ・こうしん・1844)年六月吉日」と記載されている。また、19日の図の右下に「菊川英信画(近隣・吉田村の浮世絵師)」と記載されている。(20日の図は、明治初期のものと見られ、作者は別人。) |
| 8. 所 見 | これらの絵馬は民俗行事としての「大根投げ」の様子を伝える貴重な文化財として保存すべきものである。 |
| 9. 保存上の留意事項 | 菊川英信が天保15(1844)年に奉納した2枚は表面の彩色の剥落が進んでいる。拝殿内の換気など対応しうる保存対策が求められる。 |
| 10. その他参考事項 | 弘化4(1847)年出版の『下総名勝図絵』(宮負定雄著) |

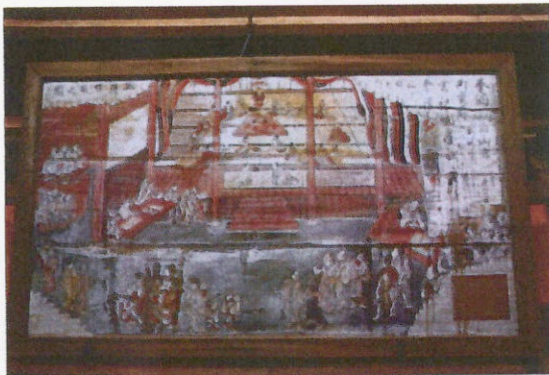
白山神社（豊栄地区木積）の奉納絵馬について



正月18日の図



正月19日の図



正月20日の図

【白山神社】

匠瑛市木積 1213 番地に所在し、創建は暦応 2 年（1339）（『匠瑛郡誌』）とされ新田義貞の家臣 16 人が木積に移り住みまつたとされています。

【3面の奉納額】

白山神社拝殿に絵馬（奉納額）が掲げられています。

明治末年まで木積で行われていたとされる通称「大根投げ」のようすを描いたもので、弘化 4 年（1847）出版の『下総名勝図絵』（宮負定雄著）に行事の内容が記されています。

18日の図は、「大根打ち」が描かれ、当番の家に集まった若者が午前9時ごろから、2組に分かれて大根投げをしました。

19日の図は、「嫁祝い」といい、着飾った新婚夫婦と稚児を並べ、笛や太鼓ではやしたててユーモラスに祝い笑いを誘いました。

20日の図は、「打ち板酒盛り」で、龍頭寺客殿で村内の 16 苗字の家が並ぶ、いかめしい祭礼、と紹介されています。

3面の額が描かれ、奉納された年代は「18日の図」の右上に「天保十五甲辰（かのえたつ・こうしん・1844）年六月吉日」とあります。「20日の図」はやや遅れて奉納されたとみられます。

作者は「19日の図」の右下に「菊川英信画」とあります。吉田村生まれで、江戸に出て江戸時代後期の浮世絵師・菊川英山の弟子になったと伝わります。出身地の寺に墓があります。

當社祭禮之図 三ヶ日之内 正月十八日之図

奉納 御寶前 天保十五甲辰年 □□□(不明)



三ヶ日之内 正月十九日之図

奉納 御寶前 當社祭禮



菊川英信画

正月廿日之図

奉納 御寶前 當社祭禮 三ヶ日之内



(4)「十二所神社の力石」の指定について

- | | |
|-------------|--|
| 1. 名 称 | 十二所神社の力石 |
| 2. 員 数 | 3個 |
| 3. 所在の場所 | 匝瑳市川辺2877番地1 |
| 4. 所有者氏名 | 宗教法人 十二所神社 藤末泰次 |
| 5. 種 類 | 民俗文化財 |
| 6. 内 容 | 神社境内の一隅に埋もれていた3個の力石。神社関係者によって平成29年11月に台座に移し納められた。いずれも卵型で重量に差があり、十八貫(約69kg)、二十貫(約75kg)、二十二貫(約83kg)と二貫格差になっている。 |
| 7. 由 来 | 一般的に力石は、江戸時代から明治にかけて主に力試しの目的で全国的に広く庶民の間で用いられた歴史がある。十二所神社は川辺、蕪里、堀川小屋、栢田の4か村の総鎮守だったとされており、その当時、村の若者たちが神社境内に集まった際、力比べなどに使用したと考えられる。奉納年などは記されていないが、江戸時代後期頃には境内に置かれたと推測される。 |
| 6. 所 見 | 昭和40年代の調査によると、旧八日市場市内で数個の力石と見られるものが確認されていたが、1個を残し所在不明となっているため、力石を知る上で貴重である。 |
| 7. 保存上の留意事項 | 敷石の上にしっかりと固定されており、保存対策が取られている。 |
| 8. その他参考事項 | 『千葉の力石』(高島慎助著)2006年、小高(飯高地区)八坂神社境内の力石については『八日市場市史 下巻』(P.623)に記載あり。 |



「十二所神社の力石」

【力石（ちからいし）とは】

「労働を人力に頼らざるを得なかった時代に労働者の間に発生し、力比べや体力を養うのを目的にした石を指す」（『千葉の力石』高島慎助著）とされている。



【参考】

「子授け信仰」で知られる小高（飯高地区）・八坂神社には、写真左の力石がまつられています。
正面に「奉納 牛頭（ごず）天王」「文政十亥（1827）春」
「願主 中村氏」「二十五貫目（約94kg）」と刻まれ、
奉納された経緯が記されています。
力石の代表的なものといえるでしょう。